

目指せ五輪

県「タレント発掘」の挑戦



⑥

スポーツで大事なものは技術だけではない



「タレント発掘事業出身の選手たちには競技を問わず五輪で活躍してほしい」と語る山内光春監督

選手の成長にやりがい

「タレント事業に携わるようになって、すごい才能だなという子どもたちがたくさん出会いました。そんな選手が高校進学時にホッケーを選ばなくてもいい。どのスポーツにも生かせるプログラムになっているのがタレント事業の特長でもあるんです」

「タレント事業出身の選手たちには競技を問わず五輪で活躍してほしい」と語る山内光春監督

県内で唯一ホッケー部がある玄界高(古賀市)で、20年以上、監督として選手の指導・育成に当たってきた。県内にはジュニアチームがないため、部員のほとんどは初心者。全国の強豪校のような専用の人工芝コートはなく、他の運動部がひしめくグラウンドの一角で練習するしかない。それでも女子は昨年度まで全国高校選抜大会で2年連続3位になるなど、実績を残してきた。

山内 光春 さん(52) = 玄界高監督

ホッケー

半でも全力で走れるだけの体力をうちの選手たちは持っている。瞬時に相手の弱点を見つかったり、パスコースを選択したりできる分析力や判断力、修正力も重要です。そうしたスキルが身につくような練習を重ねてきました」

「環境面で県外に劣っている部分は確かにある。技術的にも小中学生で始めた子たちに比べれば、スティックの使い方などではかわらない。でも、ホッケーに限りませんが、スポーツで大事なものは技術だけではありません。例えば、試合後

半でも全力で走れるだけの体力をうちの選手たちは持っている。瞬時に相手の弱点を見つかったり、パスコースを選択したりできる分析力や判断力、修正力も重要です。そうしたスキルが身につくような練習を重ねてきました」

自身も高校からホッケーを始めたが、めきめきと頭角を現し、高校日本代表にも選ばれた。大学1年からは約8年間、日本代表として活躍。学生時代に、社会人も参加する全日本総合選手権も制した。

「ホッケーの魅力は何となくスピード感。めまぐるしく攻守が入れ替わると、戦術が重要なチームスポーツでもあるので『ここから崩して点を取ろう』という『な』などと考えながら観戦するのも楽しいですよ。競技人口はサッカーなど人気の球技に比べれば少ないですが、私のように高校からスティックを握っても日本代表になれるチャンスだってあるんです」

(富田慎志)